

バングラデシュに国際救援医師団を派遣したアジア医師連絡協議会 (AMDA) 代表

波 ^{なみ} ^が菅 ^{しげる} 茂 ^{さん} (46)

ひと

バングラデシュには、ミャンマーに軍事政権成立後、多数の難民が流れ込み食料難や住環境の悪化で深刻な状況にある。「二人でも多くの人を救いたい。技術的な援助は国にまかせておけばいいが、現地のニーズに合った医療は現地の医師とのコミュニケーションでこそ実現できる」

ニーズに合った医療を



岡山大医学部の学生だった昭和四十四年、学園紛争の真ただ中にアジア各国を旅行、現地の医療環境を見聞した。「この体験が今の活動のバックという。」

AMDAは結成十二年目を迎え、十三万国、約四百人が参加するまでに輪が広がった。今回の国際救援医師団には自ら経営する内科医院の副院長を派遣した。「自分もどんどん現地に出ていきたいんだけど」とぼつり。自然災害など緊急事態に早く対応する「アジア多国籍医師団」の来年の発足を目指し、準備に忙しい日々を送っている。岡山市檜津の自宅で妻と子供三人の五人暮らし。